

RESEARCH CENTER FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS
RESEARCH GROUP FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS
<http://future-cities.ynu.ac.jp>

【講演資料】ディスカッション PartIII

長谷部勇一(社会システムデザイン研究部会長)、北山 恒(都市デザイン研究部会長)
今井 寛(横浜地域部会)、佐土原 聡(エネルギーデザイン研究部会長)

// 第2回地球環境未来都市シンポジウム(活動報告とパネルディスカッション)//

地球環境未来都市(横浜・都留)へ向け～ICTプラットフォームを活用して～

都市をリ・デザインする

2013年6月15日(土) | 13:00 → 17:00 | 参加無料

横浜国立大学教育文化ホール

ディスカッション PartⅢ

長谷部 勇一(社会システムデザイン研究部会長)

北山 恒(都市デザイン研究部会長)

今井 寛(横浜地域部会)

佐土原 聡(エネルギーデザイン研究部会長)

(司会) それでは、「都市をリ・デザインする」ということで、今日のまとめも兼ねて、皆様でご議論いただきたいと思います。

(佐土原) 最後のセッションになるので、まとめとしてお話しただければと思います。まず、思想が都市をつくるということを考えるときに、何を大事にする都市であるかというあたりが、都市デザインと社会システムの合同研究部会で議論になっています。これからの豊かさとは何かということも含めて、お話しただければありがたいと思います。


これは特に北山先生に伺いたいのですが、見えなかったものが見える化したときに、デザインはどう変わるのでしょうか。それから、全てのセッションを聞いて、今井先生としては COI 展開の可能性についてどのような印象をお持ちか、お話しただければありがたいと思います。

(長谷部) 地域経済の活性化や再生というテーマについて、最近強調されているのは、小学校の学区のような身近な範囲の中でコミュニティをつくり、可能な限りそこで労働、生産、流通、消費をしていくということです。地産地消とか、最近では6次産業化(1次産業で原材料を作り、2次産業でそれを加工し、3次産業で広告、流通、販売する。1次+2次+3次=6次の考え方)という言い方もしますが、そういう形で都市の細胞を作っていくことが、地域経済の中では必要だと考えています。

特に私が重要だと考えているのは、地域内投資循環です。日本の場合は、東京の本社に利潤が集中し、それが世界的に展開していくために海外で投資され、地域には還元されないという問題があります。国の財政に関しても同じです。私たちも年金機構に年金を多く積み立てており、積立金もかなりありますが、それは私たちと関係のないところで動かされています。しかし、外国の例を見ますと、先進的なファンドは、責任ある投資原則に基づいて、環境に配慮しない会社や、社会的な安定に貢献しない会社(兵器産業など)には融資していません。日本もそのようにすれば、地域内の循環、あるいは環境を変えるような投資も可能ではないかと思っています。

(北山) 「統合ICTプラットフォーム」というように、「統合」と付いているところがとても大事だと思います。理学的情報だけではなく、都市をデザインするときには社会データをどう入れていくかが重要です。

日本では、今、ある意味で家族や住宅が壊れつつあり、その再編が課題となっています。そのときに、例えばガスや電気を使っていない家があれば、そこは空き家であると特定できます。そういう情報を知ることによって、街を再編する手がかりを知ることが可能になるわけです。あるいは、個別の疾患が分かれば、どのような病院、あるいは医療行為が必要なのかということが分かって、きめ細やかなケアができます。今まではそうした情報がありませんでしたが、統合ICTプラットフォームが実現すれば、社会そのものをデザインするという新しいステージに入っていけるかもしれません。



日本の都市風景は非常に混乱していますが、それはある意味では民主的な風景で、情報のコントロールがうまくいけば、個人個人が思うがままに生きていける社会をサポートする社会システムが出てくる可能性が出てくると思います。情報が開示されるということは、民主的で豊かな社会をつくる可能性があります。だからこそ、情報が公開されていく必要があると思います。

今までの建築や都市の設計は、シンボルを対象にした設計でした。シンボルとは、大きな力、大きな資本、大きな権力が必要とするものですが、そのシンボルから外れていく弱いもの、力のないものに対する新しい都市デザインや建築の設計が見えてきます。

それから、一つ一つの部品である住宅の環境インパクトを下げることで、都市の環境をコントロールできるはずですが、今まではそれに対する手段がなかったのですが、情報が見えてくることによって、部分から全体を設計していくことが可能になるという時代に飛び込んでいくと思います。

(今井) 今日のお話を聞いて、COI 展開への可能性は十分あると思っています。今回の公募の特徴の一つは、アイデアを早めに出して、募集元とやりとりをしながら一緒に考えていこうという方法を取っていることです。

特に言われているのは、とがったアイデアが重要だということです。私は推進役として学内でいろいろな人と話をするのですが、面白いアイデアを出す方が大勢いらっしゃるので、結集して出していければ良いと考えています。

また、異分野融合が大切とも言われています。横浜国大には分野を越えて話す雰囲気がありますし、本研究会は大学だけではなく、自治体の方、企業の方、一般の様々な関心をもった方々に集まっています。これがわれわれの財産であると考えて、皆さんと一緒に、とがった提案を施行していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(佐土原) どうもありがとうございました。今後の展開について、大いに期待が持てそうな印象を受けました。それでは、このセッションのディスカッションは、以上で終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。

